



## 私の読書 今と昔

読書といえば、この所あまり進んで取り組んでいない。

小学生のころは、友達と競って図書室にいき、冒険ものや推理ものを手当たりしだいに読んでいた。図書カードがいっぱいになるのを楽しみに、多いときには、月14、15冊読んでいたこともあった。

中学校から高校にかけては、部活に打ち込み、読書への興味は薄れたものの、なんといっても思春期である。休み時間や学校の行き帰りの電車の中で、学生のステータスとして文学作品を片手に形だけの読書をしていた。勉強や受験のための読書というより、当時は、見栄での読書だった。今になってみると、面映いものである。

最近、仕事が忙しいという理由をつけて、読書にはいそしもうとしないことが多かった。しかし、秋の夜長でなくても、時間は作ればできるものである。妻は読書好きで、ときどき買ってきては読んでいる。それなら私も、妻が買ってきた本を布団に入って読み始めるが、体は正直である。本が強力な睡眠薬になる。時間は作れるが、作った時間はいつも数十分で終わる。いつもその繰り返しだったが、最近私は私も学習し、妻が読み終わった後にすすめる本だけに時間を作ることにしている。これは、結構うまくいっている。私は、熱中すると時間を忘れるタイプであり、多少時間がかかっても、一気に読み上げる。

このパターンで、最近読破した本の中で心に残っている一冊が、藤原正彦さんの「国家の品格」である。薄くて読みやすかっただけでなく、大変共感できるものであった。

このように、現在、私にとっての読書は、教養を身に付けるものであると同時に、睡眠薬である。どちらにしても、妻抜きには、私の読書は進まない。



(教頭 溝部 尚)

今年度もお昼休みの読み聞かせ(月2回、金曜)を始めました。1年生も、「読み聞かせがあるよ〜!」の声かけにつられて、たくさん子ども達が図書館に足を運んでくれました。じっと絵本を見入ったり、また隣に座った子と顔を見合わせて笑ったりする姿がとても微笑ましく、読み聞かせている側が嬉しい気持ちになりました。

お昼休みの読み聞かせをきっかけに、絵本や図書館が子ども達にとってより身近な存在になれば…と願っています。

### 5月に読み聞かせを行った絵本

5月11日(金) [参加児童数:25名]

- ①ね、ぼくのともだちになって! (エリック・カール / 作・絵)
- ②がいこつ (谷川 俊太郎 / 作、和田 誠 / 絵)
- ③スイミー (レオ・レオニ / 作、谷川 俊太郎 / 訳)
- ④おっぴい【大型絵本】(宮西 達也 / 作・絵)

5月18日(金) [参加児童数:32名]

- ①たんぼぼ(平山 和子 / 作・絵)
- ②三まいのおふだ(水沢 謙一 / 作、梶山 俊夫 / 絵)
- ③はやくねてよ(あきやま ただし / 作・絵)
- ④しぜんのかなのかたち むかいあわせ(よつもとあきら / 作・絵)

5月の読書カレンダーは、ご活用頂けましたか? 色塗りをした読書カレンダーは、6月11日までに職員室前の回収ボックスに入れるか、担任の先生に提出するようお子様に伝えて下さい。また、名前の記入漏れがないか確認もお願いします。

回収したカレンダーは、学期ごとに台紙に貼付し、右のような「がんばり賞」を添えて各児童に返却する予定です。



6月の読書カレンダーも本日、配布しました。家庭での“10分間読書”の取り組みに、是非ご活用下さい。



来月の読み聞かせは…

6月8日(金)、22日(金)

昼休み(13:20~)  
1棟(職員室側)2F 図書館

保護者の方で、興味のある方は、是非お越しください。

## ★★今月のおすすめ絵本★★

今月のテーマは“雨”です。

### 低学年(1、2年生)



◎第23回選定「よい絵本」

バケツから飛び出した一滴のしずくが旅に出た。水たまりから蒸発して雲の上、雲の上から雨となってまた地面へ…。岩の間で氷になったと思ったら、ころころ転がり小川の中へ…。様々なものに姿を変えて旅をしていく、しずくの冒険の物語。物知りになりながら、同時に展開も楽しめ、水っているんな形があるんだね、と印象に残る作品です。

『しずくのぼうけん』  
マリア・テルリコフスカ / 作  
ボフダン・ブテンコ / 絵  
内田 莉沙子 / 訳  
福音館書店 定価 840円

### 中学年(3、4年生)



◎第23回選定「よい絵本」

レインコートを着て雨のふる庭へ飛び出していく喜び、クモの巣に光る雨のしずく、水たまりに広がる波。画面隅々まで雨の日の楽しさ、美しさに溢れていて、いきいきと描かれた新鮮な世界が目飛び込んできます。字は1文字もありませんが、絵から雨の楽しさが読みとれるステキな絵本です。絵をじっくり見ながら、オリジナルのお話を創作してみたいかがでしょうか。

『雨、あめ』  
ピーター・スピーアー / 作・絵  
評論社 定価 1,470円

### 高学年(5、6年生)



◎第23回選定「よい絵本」  
◎第35回サンケイ児童出版文化賞  
◎第6回新美南吉児童文学賞

運動場に雨がふると、土のにおいがするというマキオ。マキオは、星はネコのなき声みたいな気がすると表現する。そして、バラのかおりはフルーツの音色みたいという目のみえない子どもたち…。これは盲目の子どもたちの心を写した絵本です。

『雨のにおい、星の声』  
赤座憲久 / 作  
鈴木義治 / 絵  
小峰書店 定価 1,470円

図書だよりが広徳小学校のホームページに掲載されています。是非、カラー版もご覧下さい。 <http://www.kita9.ed.jp/koutoku-e/>